

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775004837		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループ東大阪加納(虹)		
所在地	大阪府東大阪市加納一丁目4-35		
自己評価作成日	令和元年6月25日	評価結果市町村受理日	令和元年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループ東大阪加納は閑静な住宅街の中にあります。四季折々の花々に囲まれ敷地内には畑があり旬の作物を、ベテランの入居者様に教わりながら育てております。毎年秋には地域のお子様を招待し芋ほりを行っておりますが年々大きなさつま芋に育てております。きっと入居者様のご指導が良いからだと思っております。私達、職員は常に入居者様は人生の大先輩であることを尊重し教えて頂く思いで寄り添うの介護を行っております。その方らしい今までと変わらない当り前の人生を送って頂ける様に、全職員連携を図り、ご家族様の思いも大切に実行にうつしております。いっお見えになられても変わらないおもてなしを心掛け「ここで良かった」と入居者様、ご家族様に思っ頂ける様に日々努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、地域との交流を大切にし回覧板や運営推進会議で情報を得て地域の清掃活動に利用者と一緒に参加し、自治会館での折り紙教室やカフェに出掛けたり、また近隣の神社での盆踊り等に参加して交流を図っています。また事業所に地域の方を招いて納涼祭や居酒屋を開催し、年1回保育園児を招いてプレゼント交換を楽しむ等地域との交流を深めたり、地域の薬局で介護相談を行っています。また季節に応じて初詣や桜の花見、イルミネーションを見に出掛ける等外出の機会も多く、家族にも声をかけて動物園や花火大会を観に出掛ける等の外出行事も行っています。毎日の食事作りでは利用者に材料を切ってもらう等出来ることに携わってもらい、職員と同じテーブルを囲み会話を楽しみながら一緒に食事をし、また季節に応じた食事の提供や外食等も楽しめるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時研修にて運営理念を学びます。全職員が周知、認識し実践に取り組んでいる。	法人の理念を事業所の理念としており、玄関や事務所等に掲示し毎朝唱和して意識付けを行い、勉強会を行う機会もあります。利用者を尊重した対応に気を配りながら日々の支援に取り組み、迷った時には理念に立ち戻ることによって理念の実践に繋げ、介護記録にもその対応がわかるよう表現の工夫に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域へのボランティア活動の一環として地域清掃を行っている。 イベントでは地域の方をお招きし食事会を行っている。	自治会に加入し、回覧板や運営推進会議で情報を得て利用者や地域の清掃活動への参加や自治会館での折り紙教室やカフェに出掛けています。地域の薬局で他事業所と協力して介護相談を行っています。また年1回近隣の保育園児の来訪や地域の方を招いて事業所で納涼祭や居酒屋を実施する等地域との交流を図り楽しんでます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、地域の空いているスペースを借りて介護相談を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、ホーム内の報告を行っている。参加者の皆さんより意見を頂き良いケアについて話し合っている。	会議は2か月に1回オーナーや他事業所職員、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、利用者の状況や活動の報告、行事の案内、事故報告等を行い意見交換をしています。地域の行事の情報を得て参加したり、人員不足について話し合い事業所での取り組みの伝達や他事業所の事例を聞き参考にする等、得られた意見をサービスの向上や支援に活かしています。	会議に家族の参加が得られていない状況のため、あらためて会議の意義を伝えるなど、継続的な会議への家族の参加が得られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点やホーム内の情報伝達は電話や窓口で指導頂ける様にしている。また、東大阪市介護保険事業者連絡協議会に加入し勉強会や交流会に参加し連携を図っている。	運営上の不明点等の確認で行政の窓口へ出向いたり電話でも確認しています。市主催の介護保険事業者連絡協議会に参加し行政職員と意見交換を行い、また研修等の案内が届いた場合は可能なものには参加し、行政との協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設け3ヶ月に1度職員をランダムに選考し身体拘束・不適切なケアについてのチェックシートを行っている。今行っているケアについて身体拘束に繋がっていないかその都度話し合いの場を設けている。	職員の入職時の研修や3か月に1回身体拘束に関する研修を事業所で行い職員は知識を身に付け、チェックシートを使用して振り返りを行っています。言葉かけによる制止が見られた場合はその都度注意をしています。安全上玄関を施錠していますが、外出希望の利用者には職員が寄り添って散歩に出掛けことで閉塞感の無い支援に取り組んでいます。また現在治療中の病状のため家族の希望もありつなぎ服を使用している利用者があり、家族と話し合ったりカンファレンス等で外す方向での検討を継続しています。	

愛の家グループ東大阪加納(虹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な虐待についての会議を行い、何が逆に価するのか、その都度話し合いの場を設けている。また社内研修の一環として動画配信の研修も取り入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の状態に応じた制度の活用を全職員が理解出来るようにその都度伝え研修を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解して頂ける様に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご家族様の声を大切に普段よりコミュニケーションを図っている。本社からは毎年ご家族様アンケートへのご協力を頂き、改善するものは直ちに直直し行う。	利用者からの要望は日々の関わりの中で聞いており自宅を見に行く等、その都度対応しています。家族からは年1回法人が実施するアンケートや面会時、電話等で意見や要望を聞いています。事業所通信を送付して利用者の普段の様子を出来る限り細かく伝えるように努め意見を言いやすいよう配慮し、得られた意見を大切に運営やサービスの向上等に反映させるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議の設定を行い発言出来る様に色々な声が挙げられる内容にしている。また、必要に応じて定期的な面談を行っている。また、年に1度職員のアンケートを実施し管理者はそのデータを基に改善するものは直ちに直直し行う。	毎月実施する全体会議やフロア毎の会議、ケア会議、毎日の朝礼等の際に職員の意見や提案を聞いています。会議では全職員から意見を得られるように話しやすい雰囲気作りに気を配り、職員の提案で物品を購入したり、勤務体制を見直す等、意見や提案を運営に反映しています。また年に2回の面談の他、日々の中で随時職員と面談を実施して意見や思いを聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルに合わせてキャリアパス試験を受け個々の努力や実績等に応じて昇進制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修、外部研修の参加にてスキルの向上を図る。年に1回の会社内の事例研究発表会に参加することで自身の介護力、成長を伸ばせる機会がある。		

愛の家グループ東大阪加納(虹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東大阪市の研修会、交流会に参加し今後の取り組みに繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人との信頼関係を保つ為に情報収集に努める。初期は不安を軽減出来る様に寄り添いを主に行い精神面を支える。他の入居者様とのコミュニケーション作りも大切にし安心出来る空間作りにも努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族様の要望や思いをお聞きし信頼関係を築く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	頂いた情報とは別に見えてくる情報を基に必要なサービスを見極めtる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前の情報を把握し、常に自分ならどの様なケアを受けたいか考えてみる。受けたくないケアは絶対に行わず職員との信頼関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との信頼関係を図り何でも意見が頂ける様に、日頃より連絡させて頂ける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や大切な方との繋がりが途切れることの無い様にご家族様にもご協力頂きながら努めている。	友人や知人、親戚、姉妹、孫等の来訪時には居室やリビングに案内し、食事やお茶を用意しゆっくり過ごしてもらえように配慮しています。職員と一緒に自宅や馴染みの喫茶店に行ったり、家族と神社や墓参り、結婚式等に出掛ける際には身支度や薬等の準備を支援しています。また年賀状の投函を支援する等、馴染みの関係継続の支援に努めています。	

愛の家グループ東大阪加納(虹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人を尊重し、孤立感の無い様にその方に合った関係作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用後も今までと同じように関係性を大切にしお便りを送らせて頂いたり、また、必要に応じてはご相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からの情報や、ご本人の何気ない会話や仕草から、観察、推測行い希望の意向を引き出せる様に努めている。	入居前に自宅や施設等で利用者や家族と面談し、生活歴や身体状況、思いや意向等を聞き、以前のケアマネジャー等情報を得て書面にまとめ職員間で共有しています。入居後は日々の中で利用者から思いや意向を聞き、意思疎通が困難な場合でも利用者の様子や表情から汲み取ったり、職員間で本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活で関わりのあった方、利用しておられたサービスからの情報を収集し、隠れていた情報が無いか再度確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの変化にも気付ける様に、職員間の情報共有を徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方に合った介護計画になる様に、常に職員間で意見の交換を行い、時にはご家族様の意見も頂く。	利用者や家族の意向、アセスメントを基に作成した介護計画は入居後初回は1か月で見直し、その後は3か月、6か月毎の見直しを行い、状態に変化があれば随時見直しをしています。3か月毎にモニタリングを実施し、見直しの際には再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開き事前に聞いた家族や医師、看護師、職員等の意見を計画に反映しています。また計画の実施状況も記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の様子が分かる様に記録に残し、小さな変化も見逃すことの無い様に努め、職員間での気付きは共有し記録に残す。		

愛の家グループ東大阪加納(虹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方が受けたいサービスの提供が出来る様に職員間で情報共有を行う。今しか出来ないサービスを常に検討し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居されても今までと同じように地域との関わりを大切にしている。一人一人のスタイルに合わせ支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	安心した生活が送れる様にかかりつけ医との連携を図り必要に応じた医療を受けて頂いている。医師、薬剤師、看護師、介護職員がチームを組んでご家族様にもしっかりとした情報説明を行っている。	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続か、事業所の協力医に変更するかを選択してもらっており、家族の対応で継続している利用者もいます。協力医による毎週の往診時には薬剤師の同席もあり、緊急時は24時間連絡が可能です。また週1回訪問看護師による健康チェックを受け、必要や希望により歯科の口腔ケアや治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、介護職員は常に連携を図り入居者様の情報共有を行い早期の対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に医療機関との連携を図りホームの情報を伝えている。入院時は病院の相談員と連携を図り1日でも早く退院出来る様に実際にご本人の様子を確認し情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行っているが、その時期に再度お話をさせて頂く。ご本人の思いを尊重し医療との連携を図りながら支援に取り組んでいる。	入居時に指針を基に利用者が重度化した際の事業所の方針を家族へ説明し意向を確認しています。重度化が進んだ際には再度家族に意向を確認し、医師の判断により訪問看護師とも連携して家族からも協力をもらいながら対応可能な範囲で支援を行っています。年1回法人の看取りに関する研修や外部の医療面から見た看取りにお研修も受講しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルがあり全職員が周知している。定期的に勉強を行い実践力を養える様に努めている。		

愛の家グループ東大阪加納(虹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	対応マニュアルがあり算職員が周知している。定期的な消防訓練を行い常に災害の恐ろしさを意識し、火災は防げる様に出火原因になりうる隠れたホコリや電気コード、火の元に注意している。	消防訓練は年2回昼夜想定で実施し、その内1回は消防署立会いの下、利用者も一緒に参加して通報や避難誘導、水消火器を使用した訓練等を実施しています。訓練の際には近隣へ告知を行い、実際に見学してもらうこともあります。設備の埃などの清掃も年1回行い、法人管理の下、水や食料等の備蓄をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけと環境作りを徹底している。	年1回認知症や接遇マナーに関する研修を事業所で行い、職員は知識を身に付けています。利用者を尊重して落ち着ける環境作りに努め、丁寧な対応等があればその都度注意しています。入浴時や排泄時の声かけは周囲にも気を配り、希望に合わせて同性介助で支援する等羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のおもいや希望を把握し、生活の中で自己決定出来る場面作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の思いを常に尊重し会話の中で見えてくるものを、直ぐに実行できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	変わらぬその方らしい身だしなみを常に意識し支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事作りを行い、出来ない方には簡単なテーブル拭きのお手伝いをして頂いている。	食事は法人の管理栄養士が立てた献立を基に利用者の好みも取り入れながら事業所で作っています。調理師と一緒に利用者も材料を買いに行ったり、材料を切る等出来る事に携わり、職員も一緒に同じ物を食べています。季節に応じた食事の提供やケーキ等のおやつを手作りしたり、回転寿司等へ外食に出掛ける等食事を楽しめるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて食事量、水分量の把握を行い、バランスの取れた食事の提供をしている。お手伝いの必要な方への食介助にも配慮し、自尊心を気付けないように工夫している。		

愛の家グループ東大阪加納(虹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医より口腔内の指導や助言を頂き、状態を把握しケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に使用しているオムツが現状その方に合っているのか検討している。一人一人の排泄のパターンを掴みトイレでの排泄を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、全利用者の排泄の記録を取り個々のパターンを把握して声かけや案内を行っています。排泄支援の継続により入居時は紙パンツを使用していた方が布の下着に変更する等排泄状況が改善した利用者もいます。利用者個々に応じた排泄用品の種類や支援方法を職員間で検討し、できる限り自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探り、薬・食事の見直しを検討する。また、運動やマッサージを取り入れ快適な排便リズムに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常に入浴出来る様に準備し、入居者様の入りたいタイミングを逃さず、職員間で連携を図る。一人一人の入浴スタイルも大切に心地の良い入浴時間に努めている。	入浴は週2回を基本に午後の夕方までの時間帯に支援していますが、希望に応じて毎日や夜間の入浴も可能です。入浴拒否が見られる利用者には日時を変えたり声をかける職員を代える等工夫して無理なく入浴してもらっています。入浴剤の使用や季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しんだり、湯は一人ずつ入れ替え会話や歌も楽しみながら入浴してもらえるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休んで頂ける様に、寝具は時季に応じて入れ替え、室内の環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理の徹底と薬内容の把握を行っている。症状に合った薬なのか状態の変化時には主治医、薬剤師と連携を図り見直しを行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や今の状態で出来る楽しみを提供出来る様に常に職員間で連携を図り支援を行っている。		

愛の家グループ東大阪加納(虹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に希望に添える様に支援を行い、また、ご家族様を巻き込んで外出や外泊の支援を行っている。	気候の良い時期には希望に合わせて出来るだけ散歩や買物、ドライブ等に出掛けています。初詣や桜の花見、イルミネーションを観に行く等季節に応じた外出も行っていきます。盆踊りなどの地域行事に出掛けたり、家族も招いて動物園への遠出や花火大会を観に行く等、外出の機会を多く持てるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の状態に合わせた対応を行っている。自由に買い物が出る喜びを感じて頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時にかけて頂いたり、書きたいときにお手紙を書かれたりと支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に間様が心地よく過ごして頂ける様に清潔感を保ち、香り、音楽、季節感を大切にしている。	フロアに利用者が書いた習字や観葉植物、生花等を飾り温かい雰囲気作りに努めています。椅子やテーブルは利用者同士の相性を考慮して配置し、ソファも多く設置してゆっくり過ごせるように工夫しています。毎日の換気や温湿度計を確認しながら利用者の体感も考慮して室温を調整し、利用者も出来る事に携わりながら掃除を行う等快適に過ごせる共有空間を作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有場所でありながらも落ち着く場所作りを行っている。横になれるソファ、雑談できる居間、テレビの前でゆっくり寛げる椅子のセッティングを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や大切な方の写真、大好きな花々をその方らしい居室に工夫しホット出来る場所作りに努めている。	入居時に家族に馴染みの物を持ち込んでもらうように伝え、テレビやタンス、棚、冷蔵庫、人形、ぬいぐるみ、家族の写真、仏壇等を持ち込み配置は家族が行っています。編み物の道具や利用者自身が描いた絵を持ってきたり、こたつを置いて寛ぐ利用者もいます。毎日利用者も出来る事に携わりながら清掃や換気を行い居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様自身が行動出来るように分かりやすいトイレの場所、入りやすいキッチン、直ぐに出れるベランダと自由に動ける同線に努めている。		